

佳作

## わたしのおてっだい

鹿児島県 鹿児島市立川上小学校一年 西原 綺椰

「おいしい、ありがとう。」  
おかあさんが、いつもにこにこしながら、わたしに  
いってくれます。

わたしとおとうさんは、まいしゅうにちようびの  
あさ、ワッフルをつくっています。これは、わたし  
が四さいからつづけていることです。

わたしが、四さいのときにいもうとがうまれました。  
いもうとがあかちゃんときは、おかあさんは、  
いつもねぶそくでした。そこで、おとうさんが、  
「おかあさんをまだねかせたいから、いっしょにあ  
さごはんをつくってくれるかな。」

といったので、わたしは、  
「うん。がんばる。」  
とおおきくうなずきました。それから、わたしのお  
てっだいがはじまりました。

四さいのとき、さいしょのおてっだいは、ワッフル  
のこなとたまご、ぎゅうにゅう、バターをまぜる  
ことでした。さいしょは、なかなかうまくまぜられ  
ませんでした。いそいでまぜようとして、こながパ  
ツととんで、ようふうについたこともたくさんあり  
ました。でも、いつもよろこんでたべてくれるおか  
あさんのおをおもいうかべながら、おいしくな  
れ、おいしくなあれとまほうをかけてまぜました。  
おかあさんは、

「おいしいよ、ありがとう。」  
と、いつもにこにこしながら、いってくれるのがと  
てもうれしかったです。だから、にちようびのあさ  
にはやおきするのが、とてもたのしみでした。

五さいのときは、まぜることとたまごをわること  
がわたしのおてっだいでした。たまごがわれずにか  
らごとまぜたこともありました。でも、ちよっぴり  
できることがふえてきて、なんだかおねえちゃんに  
なったきぶんでした。

そして、六さいになったわたしは、しょうがくせ  
い。おてっだいをすることもふえました。まぜること  
とたまごをわること、そしてワッフルをやくこと  
がわたしのおてっだいになりました。もうまぜると

きにこながパツととびちることはほとんどありませ  
ん。はじめてワッフルをやくときは、ほわほわして  
あつくなっているワッフルメーカーに、てがあたり  
ないか、どきどきしながらやきました。ピピピッ  
とできあがりのタイマーがなり、ワッフルメーカー  
のふたをあけると、あまいにおいがふわっとしてき  
て、おいしそうなワッフルができあがりました。

「もう、あやなにまかせられるね。」  
おとうさんもうれしそうです。もうひとりでワッ  
フルをつくることができます。

いまでは、いもうとはもう二さいです。あかちゃ  
んだったいもうとも、わたしがつくるワッフルをた  
べるようになりました。

「ねえね、あつとう。」  
といって、りすみたいにワッフルをくちいっばいに  
してたべてくれます。にちようびにそのかおをみる  
のが、とてもたのしみです。

これからわたしのおてっだいはつづきます。つ  
ぎは、なにをおてっだいしようかな。